

自由論題3 「東南アジアの経済・国際関係」

報告1

猿渡剛（九州大学大学院専門研究員）

東南アジアの FTA とマレーシアの電機産業

Southeast Asian FTAs and the Electrical and Electronics Industry in Malaysia

東南アジア諸国は工業化によって急速な経済発展を成し遂げてきた。多くの東南アジア諸国では、工業部門が農業部門やサービス産業部門を抑えて一国の主要部門となった。東南アジア諸国の工業化を支えたのは多国籍企業であり、特に日系電機メーカーは自動車メーカーと並んで東南アジアの各地で直接投資、生産、輸出を行ってきた。

しかし、2000年代に入ってから東南アジア諸国の電機産業の生産額や輸出額を見ると各国間の差異が拡大しており、その背景には日系企業による生産拠点の再編があると考えられる。本報告では、これまで東南アジア各国が確立してきた自由貿易協定（FTA）を、拠点再編の重要な要因として取り上げる。

生産拠点の再編と FTA の関連性の分析結果は次のとおりである。2000年代以降、一部の日系電機メーカーは生産体制を見直し、マレーシアをはじめとする一部の国への集約を推進した。そしてマレーシアは2000年代後半から、テレビとエアコンの生産拠点として位置付けられた。こうした生産拠点の再編は、東南アジア各国の生産台数や輸出金額の増減に大きく影響を及ぼした。また、マレーシア・インド包括的経済協力協定が発効した2011年には、マレーシアにおけるエアコンの生産台数が急増し、他の東南アジア諸国とインドへの輸出金額が増加した。東南アジア諸国における FTA 利用率は上昇の一途をたどっており、FTA を利用した製品の輸出は今後も増加していくと考えられる。

自国市場だけでなくより市場が大きい近隣国への輸出拠点としての役割をも担うことで、マレーシアの電機産業の成長は実現した。そしてその成長を可能にしたのは、コストを削減するため生産拠点を集約し、FTA を利用して輸出しようとする日系メーカーであった。